

昔の家のようす

昔の農家は、かややわらぶきの屋根がほとんどでした。家の形は曲がり家^{まがり}家^やといって、かぎのように曲がった家が多くありました。柱は太いものを使ったので、200年もたえられる家でした。



曲がり家



うまや



ふろば、便所

家の中に入るとすぐ土間^{どま}になっており、入口のすぐわきに馬小屋^{うまや}があって、馬は人と同じように家の中でかわれていました。土間のすみには農具^{のうぐ}がおかれており、こわれたものはしゅうりして大切に使われてました。ふろばと便所は、となり合わせで作られていました。また、奥^{おく}の方には来客用^{らいきゃく}のざしきがあり、それ以外はむしろをしいたかんたん^{かんたん}なつくりでした。土間に面した所すべてが仕事場になるように作られており、農業^{のうぎょう}を第一と考えた家でした。

なぜ馬は、人と同じように家の中でくらすしていたのでしょうか？

